

「畜産物消費者モニター令和5年度第1回アンケート調査」結果概要

令和6年1月15日
(一社)大阪府畜産会

I 「令和5年度第1回アンケート調査」の実施方法

○調査時期	令和5年11月～12月
○調査方法	メール・FAX・郵送方式により配布・回収
○調査対象者	(一社)大阪府畜産会「畜産物消費者モニター」141人
○調査票回答者	66人(調査票回収率・有効回答率46.8%)
○調査主要課題	好まれる畜産物の料理及び購入時の視点について
○調査事項	別紙「調査票」のとおり

II 回答者の属性

(単位：人、%)

	合計	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
男女	8 58	0 1	1 1	2 10	1 18	3 21	1 6	0 1
合計	66 (100.0)	1 (1.5)	2 (3.0)	12 (18.1)	19 (28.8)	24 (36.4)	7 (10.6)	1 (1.5)

注：調査結果分析では20代の回答者はなく、50代以上の回答者が主体となった。
また、男性の割合は前回より減少している。(16.7%→12.1%)

Ⅲ 調査結果の概要

1. 外食でよく食べられる牛肉料理について

「焼肉」とした回答が最も多く、次いで「ステーキ」、「ハンバーグ」の順となった。回答数58に対し、「焼肉」が67.2%、「ステーキ」が25.8%、「ハンバーグ」が22.4%であり、外食では3分の2以上の人々が「焼肉」と回答している。

少数派意見としてはBBQや串カツなどのメニューも見受けられたが、王道とも言えるメニューが上位を占めた。

2. お家でよく食べられる牛肉料理について

「すき焼き」とした回答が最も多く、次いで「肉じゃが」、「カレー」の順となった。回答数64に対し、「すき焼き」が40.6%、「肉じゃが」が29.7%、「カレー」が25.0%であり、「すき焼き」に根強い人気があることがうかがえる。ここでも少数派意見が多く見受けられたが、やはり王道的な料理が上位を占める結果となった。問1の結果でも同様だが、多くの人々が「しゃぶしゃぶ」よりも「すき焼き」を好んでいることがわかる結果となった。

3. 外食でよく食べられる豚肉料理について

「とんかつ」とした回答が最も多く、次いで「しゃぶしゃぶ」、「酢豚」の順となった。回答数55に対し、「とんかつ」が58.2%、「しゃぶしゃぶ」が18.2%、「酢豚」が12.7%であり、圧倒的に「とんかつ」人気が高い。少数派意見とした「とんかつ定食」や「かつ丼」なども含めると、さらに支持率は上がる。

「酢豚」や「餃子」なども中華の定番と言えるが、豚肉を食べるイメージとすればやはり「とんかつ」が最初に思い出されるのだろう。

4. お家でよく食べられる豚肉料理について

「炒め物」とした回答が最も多く、次いで「鍋」、「お好み焼き」の順となった。回答数64に対し、「炒め物」が45.3%、「鍋」が35.9%、「お好み焼き」が31.2%であり、意見が分かれた感じがする。但し、「鍋」の中に「しゃぶしゃぶ」を含むと支持率は62.5%となり順位は逆転する。前問とは逆に中華の定番である「酢豚」や「餃子」は少数派意見となっている。

5. 外食でよく食べられる鶏・鴨肉料理について

「から揚げ」とした回答が最も多く、次いで「焼き鳥」、「丼」の順となった。回答数56に対し、「から揚げ」が64.3%、「焼き鳥」が25.0%、「丼」が10.7%であり、「から揚げ」の圧勝である。「から揚げ」も「焼き鳥」もいわば酒のつまみの定番といえる料理である。また「鍋」と答えた人は2人しかなく、牛や豚と比べて鶏や鴨の鍋は外食では印象が薄いのかと思われる結果となった。

6. お家でよく食べられる鶏・鴨肉料理について

「から揚げ」とした回答が最も多く、次いで「煮物・煮込み」、「鍋」の順となった。回答数62に対し、「から揚げ」が51.6%、「煮物・煮込み」が25.8%、「鍋」が19.3%であり、家庭内でも「から揚げ」が最も定番な料理とされている。また、外食では支持率の低かった「鍋」が家庭料理では3番目に支持が高く、これにより鶏鍋は家で食べるものとして位置づけされているように思われる。「煮物・煮込み」はバリエーションが多く、うま煮や筑前煮などもこの項目にまとめられている。

7. 外食でよく食べられる牛乳乳製品料理について

「スイーツ」とした回答が最も多く、次いで「グラタン」、「ピザ」の順となった。回答数50に対し、「スイーツ」が56.0%、「グラタン」が36.0%、「ピザ」が20.0%であり、「スイーツ」が半数以上となった。但し、この中にはアイスクリームやケーキ、プリンなど多くの種類が含まれており、編集の都合により「スイーツ」として取りまとめた結果である。それを除けば料理の定番として最も支持されたのは「グラタン」という王道料理であったと言える。

8. お家でよく食べられる牛乳乳製品料理について

「シチュー」とした回答が最も多く、次いで「グラタン」、「スイーツ」の順となった。回答数58に対し、「シチュー」が55.2%、「グラタン」が39.6%、「スイーツ」が29.3%であり、ここでも「スイーツ」は編集の都合上多くの種類を取りまとめた。上位2点についてはやはり定番の料理がラインナップされた。前問でも言えることかもしれないが、牛乳乳製品と広い範囲で求めた回答であり、牛乳もチーズもヨーグルトもひとまとめにしたので、難しい設問だったかもしれない。

9. 外食でよく食べられる玉子料理について

「オムライス」、「オムレツ」、「天津飯」が同数の支持を集め、次いで「丼」という結果だった。回答数56に対し、「オムライス」、「オムレツ」、「天津飯」がともに26.8%であり、次点の「丼」が25.0%であった。今回「だし巻き」と「玉子焼き」を分けて集計しており、双方を合わせると30.3%となり、順位的にはトップとなる。また外食でも「目玉焼き」とした人が4人もあった。意外な感じがしたが、皆さんの印象はどうだろうか。

10. お家でよく食べられる玉子料理について

「玉子焼き」とした回答が最も多く、次いで「目玉焼き」、「ゆで玉子」の順となった。回答数65に対し、「玉子焼き」が52.3%、「目玉焼き」が30.8%、「ゆで玉子」が24.6%であり、朝ごはんの定番ともいえる2大おかずが当然のごとくトップツーを占めた。この項目がもっとも回答の種類が多く実に31種類のぼり、集計が最も困難であった。それほど家庭で多くの玉子料理が食べられている結果であるといえる。

11. 国産畜産物と輸入畜産物の使い分けについて

国産の畜産物と輸入畜産物を買う目安または購買目途について問うた設問においては、「輸入品は買わない」とした回答が最も多く「国産品は買わない」とした回答は無かったが、「その日の気分で」や「ちょっと贅沢したいとき」とした意見も一定数あり、基本的に国産肉は高いと感じている意識があると読み取れる。

「その他記述」の中で「特に気にしていない」といった意見もあったが、「値引きやセールされている方を買う」というお買い得感を優先する意見もあった。

12. 畜産物購入の際に重要視されることについて

買い物をするときに、どんな項目が重要視されているのかを探る設問については「価格」が最も多く、次いで「品質」となり、「産地」や「賞味期限」についても一定の支持があった。「販売店」や「色・形」について回答した人は半数以下であり、最終的には「値段に見合った品質」といったところに関心が高いのではないと思われる。

「その他記述」では「部位」とした回答が複数あったり、「ドリップが出ているものを避ける」という意見、また「最終的に美味しそうかどうかで決める」といった意見もあった。

13. 売り場の国産牛肉の価格について

回答数は63であり、ほとんどの方に回答いただいた。その内容は大きく分けて①高いと感じている、②さほど価格上昇したと感じない、③ある程度の価格は仕方なし、に分類されている。最も多いのは生産者の苦労をねぎらう意見であった。また、買い控えや切り落としなどを購入するなどで工夫している意見も多かった。

牛肉が値上がりしている感想は多くの方がもっており、それをどうとらえるかは個人によって異なることが読み取れる結果であった。

14. 玉子を産み終わった「親鳥」の販売について

「知っている」とした回答が36、「知らない」とした回答が18であった。「どこに売っているか知らない」とした回答が14であり、「初めて聞いた」という回答が9であった。この結果から「親鳥」が広く流通されていないこと、消費者に浸透されていないことがわかる。

逆に「肉が固いので買わない」とした回答が4名あり、そのうち3名が70代以上であった。固い肉であることは知られているということか。

「その他記述」では香川の骨付き鶏やひねぼんなど具体的な商品名をあげて評価する回答もあった。

Ⅳ まとめ

1. 外食及び家庭内において好まれるそれぞれの料理について

牛肉をはじめ乳製品に至るまで、外食で好まれる料理の傾向と家庭内料理として好まれる傾向について調査した結果、基本的に王道的な料理がどの項目でも上位を占めた。中には少数意見も散見されたが、上位5種以外においても一般的によく知られている料理名が挙げられていた。

牛肉では外食で「焼肉」、家庭で「すき焼き」という昭和の定番料理が人気であった。「ステーキ」は外食では上位となったものの、家庭で好んで「ステーキ」を食べられることは少なく、家庭においては「肉じゃが」や「カレー」が人気を集め、外食と家庭料理との違いが大きく分かれ特徴的であった。

豚肉において外食では「とんかつ」が圧倒的人気を誇り、家庭では「炒め物」や「鍋」といった手軽な料理が好まれることがわかる。また外食では「酢豚」や「餃子」などにも人気があり、中華料理店での嗜好傾向がうかがえると同時に、大阪らしく家庭料理の中に「お好み焼き」が入っているのが特徴的といえる。

鶏・鴨肉においてはある意味予想通り、外食でも家庭でも「から揚げ」がダントツの人気を集めた。外食では次いで「焼き鳥」の回答が多く、焼鳥屋の看板が容易に想像できる。今回は女性の回答者が多いが、男性の回答が多い場合、解答の傾向が変わることも考えられる。また、「煮物」が家庭で好まれるのも傾向の一つと思われる。

牛乳乳製品では、外食で「スイーツ」（多くの種類が挙げられたが、ひとまとめにした結果である）、家庭で「シチュー」が最も好まれる料理として挙げられた。特徴としては、外食でも家庭でも「グラタン」が好まれる結果が表れており、ここでも定番料理が人気となった。

玉子については、外食では上位4点がほぼ同数の結果となった。外食ではなかなかメイン素材になりにくい材料であるが「オムライス」に「オムレツ」と「天津飯」に「丼」など、似かよった料理が並んだのも特徴といえる。家庭料理では「玉子焼き」や「目玉焼き」などのお弁当や朝食定番メニューが上位を占めた。また、意外にも家庭料理の中に「玉子かけご飯」が入っておらず、これは料理とは言えないからか。

とはいえ、ほとんどが50～70代までの女性の意見である。特に家庭料理については、食べる目線と同時に作る目線も考慮されているだろうし、同じ世代でも飲み会の多い男性が対象となった場合には異なる回答が予測される。

しかしながら、外食で求められる料理と家庭で求められる料理がある程度傾向として出ており、販売におけるヒントにつながればと思っている。

2. 国産畜産物と輸入畜産物の視点について

コロナ禍やロシアウクライナ情勢により需要と供給のバランスが崩れ、多くの飲食店が廃業に追い込まれた。また輸入飼料に依存している生産現場においても、収支バランスが崩れており、中でも肉牛生産農家が苦境に陥っている。牛枝肉市場価格は下がっている反面、店頭での牛肉小売価格は高値圏にあり、消費者にとって牛肉は日常的な購買品として遠ざかっている感がある。こうした実態について直接消費者の意見を聞くことに、この設問の目的があった。

結果として「牛肉は高い」というイメージは浸透しているものの（事実高いことに違いないが）、長年畜産物消費者モニターとして学習してきている方が多いためか、生産現場の状況を気に掛けてくれる回答が多く目立った。

買い控えや豚肉や鶏肉への代替えなどで済ます人、買わなくなった人、仕方がないとして購入する人と様々であるが、生産者に対しては一定の理解を得ているものと思われる回答が多く見受けられた。

3. 売り場での牛肉価格や「親鳥」に関することについて

近年、YouTube などの動画でも美味しそうな「から揚げ」が多く取り上げられている。前述の鶏肉に関する人気料理においても「から揚げ」が高い人気を示していた。その「から揚げ」の材料となっている鶏肉はブロイラーと呼ばれる生後40～50日程度の肉用鶏である。本府の養鶏場は全て採卵鶏経営であり鶏肉生産者はいない。しかしながら、採卵鶏としての役割を終えた廃鶏も食鶏処理場へ出荷され、食鳥肉として利用されている。府内では食鶏処理場で加工してもらった鶏肉を「親鳥」として販売している経営もあり、消費者の「親鳥」に対する認識を知っておくことは大切であると考えたため、廃鶏が「親鳥」として売場に並んでいることについて、どれくらい周知されているのかを探ることを目的とした設問である。

結果からは、長年畜産物消費者モニターとしての知識があるだけに「親鳥」を知っているという回答が最も多かったが、どこで売られているのかわからないとの回答も多く、いわゆる＜かしわ屋＞でしか販売されていない実態が今回の調査結果とから伺い知れる。

4. 総評

毎年行っている畜産物消費者モニターアンケート調査であるが、ここ数年の回答率が減少傾向にある。対象者の年齢が年々上がってきていることもあり、脱退を希望する声もちらほら聞こえ、今年度だけで6名の脱退希望を受けた。今後は新しいモニターを募集することを視野に入りたい。

調査内容については、今までにないフリーライトスタイルの形式であったが、ほとんどの項目で空白がなかった。料理名の記載では数多くのものが挙げられ、全てを列記することはできなかったが、ある程度の傾向はつかめたと思う。

畜産物を販売する上で部位であったり、調理法を提案できる材料として活用していただければ幸いである。